

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		ほーむ見学に来所した方、ボランティアの方にも伝えていきたい
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		現在は小学校の運動会・音楽会に参加しているが、幼稚園・小学校との交流を更に深めていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアに来て頂くと同時に自分達がボランティアとしてできる事を実践している 地域のゴミ拾い		中学生の職場実習などの受け入れをしていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての評価になるが、その意義を職員間で共有し支援に活かそうと考えている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	9月4日(火)に初回の運営推進会議を開催 ほーむの状況を報告すると共に意見を頂き、サービス向上に活かすようにしている		メンバーから率直な意見を引き出し、改善に向けた具体的な取り組みにつながるようにしたい
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問点などは市に教えて頂くようにしている 認定調査に来所した折には施設を見て頂くよう努めている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修会に参加し、職員間で情報共有するようにしている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は拘束禁止についての研修会に参加 他職員にも順次受講の機会を確保している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時においても、その後においても不安・疑問に思う事には答えるようにしている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に管理者や職員に利用者が意見等を言って下さる状況にあり、運営推進会議においても利用者が意見を述べている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>行事・金銭については毎月報告 健康に関する事はその都度報告するようにしている 新聞を発行し様子がわかるようにしている 家族会を定期的に開催している</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付担当、苦情受付責任者、第三者委員をほーむ内に明示し活用できるようにしている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に職員全体会議を開催し、意見を聞く機会を設けている 直接言いづらい事は、計画作成より管理者に伝えるようにしている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の身体変化・行事等に合わせ職員配置を厚くするなどしている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職を防ぎ、なじみの関係が長く続くよう勤務希望に配慮している 新しい職員が入る場合は、利用者に紹介し利用者からほーむ内の事を教えて頂いたりしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部の研修を奨励すると共にそれを他職員に伝える報告会や内部研修も行なうようにしている</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の勉強会に参加すると共にネットワークを広げる事で他事業所の良い所を見習い、サービスの質向上につなげるようにしている</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>リフレッシュ休暇を取ってもらったり、話を聞くなどしている</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修を奨励し自分自身を向上させる機会の確保に努めている</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約前に自宅を訪問し、話を聞くようにしている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談に来所した折や事前面接時には、これまでの経緯も含め困っている事等聞くようにしている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の思い・状況を判断する中で、他のサービスについても提案している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に見学に来てもらったり、体験入所をして頂く事でサービス利用に対する不安を軽減するようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できる事をやって頂く事と共に感謝の言葉を伝える事でやりがいを感じて頂くようにしている それにより共に支え合う関係作りに努めている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら本人と一緒に支える為に情報共有している		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族・本人の思いを考慮し、外出や外泊の機会を持って頂けるようお願いしたり来所して頂けるようにしている 個別相談の機会を設け、臨機応変に家族との話し合いをとっている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に来て頂いたり、訪問したり継続したつきあいができるようにしている		利用者一人ひとりに対しての支援を念頭に、思いを聞き叶えられるようにしたい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞いたり、みんなで楽しく過せるよう声かけし、利用者同士の関係に配慮している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了したご家族にも遠慮なく来て下さる様伝え、訪ねてきて下さる関係ができています		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の思いの把握に努めている 意思疎通が困難な方にも本人のためにどうしたら良いか家族と話すようにしている		センター方式を導入し、更に本人の思いに着目していきたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者に話を聞いたり、生活歴等を可能な限り書いて頂いている その後も本人の話から把握するようにしている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムに合わせるようにしている 食事時間も個々の体調に合わせて時間をずらす事もある		入浴時間も一人で入れる方は夕食後にするなどしているが、散歩など職員に合わせて頂く事もあるので個々のできる事を考えていきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の思いやより良く暮らして行く為の計画になるようにしているが、他職員の意見も聞くが担当者でケアマネで作るようになってしまっている		チームとして一人ひとりを支えるという視点でアセスメント・計画を作れるように話し合いの機会を工夫していきたい
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化がある場合は見直している		3ヶ月毎ではなく6ヶ月になってしまっている為、変化がなくても介護計画の見直し・作成をやっていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子や本人の言葉を記載、身体状況についても別紙にて記録し情報共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護・協力医療機関と連携する事で、利用者にとって負担となる受診や入院の回避につなげている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人と地域の接点を見出せるよう小学校やボランティアへの協力を呼びかけている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域外への受診時には、ボランティア移送サービスの利用を支援している		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括の職員に参加して頂き、情報交換・協力体制を築いている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本法人理事が主治医となり月2回の往診、誕生月の健康診断を行い健康管理も行なっている 職員も普段からの健康状態について報告・相談して健康管理を行い、状況にあった対応を行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本法人理事(医師)と連携があり診断・治療を受ける体制は整っている。月2回の往診時、また変化あった時は職員より報告している。また認知症への理解を深める為理事自らや、また専門知識のある方を招いて勉強会も行っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月2回連携のある訪問看護ステーションより隔週で看護師が来所。職員より近況を報告し見て頂いている。日常は職員が内服薬等の管理と共に健康状態について観察し、状況により看護師へ連絡し相談を受けて頂いている。また緊急時の連絡体制も整っている。		介護職員も内服薬や医療についての知識を深めスムーズに連携が図れるよう努めていく
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	本法人理事が医師であり病院との情報交換等連携を図っている。現在利用している方が入院したケースはないが、必要に応じて相談・診察を受けられる体制は整っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	各利用者についている担当職員が中心となりカンファレンス等を通じてADLの変化に伴う対応を考え実行している。また現在はない症例に関しても事例等を基にそのような方の入居希望があった際どう対応していくかも考えている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること、できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期に対する検討は不十分といえる。重度化しない様、歩行訓練・散歩等を通じADL低下防止には努めている。		職員全体で対応可能な事、困難な事、不安な事を話し合い医療職と連携を取る中で自分達のできる事を考えていきたい
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	混乱させない様環境を変える必要がある場合は職員間でカンファレンス等の場で意見の交換・情報を共有し対応を決定する。御家族の要望も事前に聞いた上で考慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>完全個室対応でプライバシーの保護に努めている また個人情報の保護の重要性については職員へ周知徹底している</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員は家族的な対応を心がけ、日々遠慮せずになんでも訴えて頂けるよう努めている</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>厳密なタイムスケジュールはなく、個々に自由にして頂くよう対応している</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>おしゃれについては本人の意向を尊重し、職員は補助的に援助している 理/美容については家族の支援で本人の望む店に行っている 希望の店がない人については地域の店を利用している</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事準備/食事/片付けは常にスタッフ、利用者が協力して行っている またメニューにより味付けにも参加して頂くよう心がけている</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>自己管理できる方は本人に任せている また日々季節感を感じられるようおやつ等提供している 酒・たばこについては訴えなく提供していない</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツの使用はなるべく減らすよう心がけている 定時のトイレ誘導はあまりしておらず、各利用者の訴えや排泄サインを読み取りトイレ誘導している		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介助が必要な方については事故防止の為、日中職員が見守り・介助ができる時間としているが、自立した方については好まれる時間に入って頂くようになっている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	共有スペースや各自の居室等本人の好む場所で随時休めるよう配慮している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ぬりえ/書きとり/習字/読書等本人の好むものを適時勧めている また園芸/防火等係りをつくり、日常生活の中で活動して頂いている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理可能な方については所持して頂いているが、他の方については職員が管理している 買物時には本人の意向を尊重して買物支援している		家族に働きかけ、より多くのご利用者にお金を所持して頂くことから始めていきたい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一日に一度は散歩等で戸外に出て気分転換が図れるよう配慮している		ボランティアの協力を得、さらに多くの外出機会を設けたい
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の意向を聞き、月に1、2回程ドライブやピクニックを行っている また家族にも参加して頂けるよう声かけしている		一泊旅行等も行っていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話をしたり、また希望があった際は電話の取り次ぎを行っている 本人自ら手紙を書かれた際にはポストまで職員と一緒に出しに行くなどしている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者には居心地良く過せるよう声かけしたり、お茶を用意している 大まかな面会時間はあるが、訪問者の都合に合わせるなど配慮している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には身体拘束廃止に向けた研修に参加させている 情報共有を図るようにしている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中食堂のはきだし窓8:30～夕方まで鍵はかけていない 居室・玄関の鍵はかかったままとなっている		居室は窓に布団干し用のフェンスをつける為にはきだしの窓にしたが、予算の都合で来年度になる それに合わせ鍵をかけないようにしていきたい
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間定時に巡回し様子観察を行っている 日中は職員間で声かけし、利用者の所在を把握している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じて裁縫道具など自分で管理して頂いている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災等防ぐ為の防火訓練等を行っている ヒヤリハットでの情報共有をし、事故防止に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心肺蘇生等の訓練を行うなどしている 急変時のマニュアルも作成している		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練など行っている		夜間職員一人に対応する場合も考え訓練していきたい
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族会などで説明等している 手紙などで情報等お知らせしている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	発見した際には訪問看護師に連絡を取り情報を伝え、対応に結び付けている また職員間においても申し送り・業務日誌等で情報を共有対応に結び付けている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食事必要な支援・介助を実施 服薬チェック表に記録している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し排泄チェックを行っている 食物繊維を多く含む食材を献立に取り入れるなどの工夫をしている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は毎食事時・10時・3時その他にもなるべく多く摂取できるよう心がけて支援している 栄養面についてはカロリー低めに考えて一人ひとりの状態に応じて支援している		肉料理が多い為、魚を使った料理をもっと多く取り入れるように取り組んでいきたい
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは利用者様・職員とも予防接種している 感染症に対しては、手摺の消毒は1日2回・手指の消毒は毎食事前、おやつ前に実施 入浴後は足に消毒液をかけ予防している 来所者に対しては玄関にて手指消毒実施している		汚物室がない為、浴室での処理になっているので使用後の消毒を徹底したい
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は賞味期限の切れたものは処分する 調理器具は1日1回消毒を実施している 料理は作り置きせずその都度作り提供する		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門の扉は日中開放して誰でも入れるようにしてある 玄関は車椅子で出入りできるようバリアフリーになっており、玄関内には靴の脱ぎ履きする時に腰掛けるよう作り付けの椅子が取り付けられており、折りたたみ式の椅子が収納式で設置してある		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は不快な音や光はなく、季節に応じて壁に貼り絵等飾ったり習字教室で書いた作品を展示したり工夫している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほーむ内には廊下にソファが2箇所おいてあり利用者様が一人又は気の合った利用者様同士で過せるように工夫してある 廊下に畳のスペースを用意しており、利用者様が思い思いに過せるようになっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室、利用者様が使い慣れた家具や寝具を使い、居心地良く過せるようにしている		家族の支援を得られない方には、職員が好みのものを把握していく中で手作りのポスターなど居心地良く過せるようにしたい
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気には充分気をつけ換気扇を廻し、空調はこまめに入・切や温度調節を行っている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の両側には手摺が設置してあり利用者様が歩行する際転倒する事のないよう工夫している トイレ内にも手摺を設置し、転倒の危険のないよう工夫している また歩行訓練にも供している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食事の準備や後片付けを利用者様に手伝って頂いている 洗濯物干しやたたむ事を手伝って頂いている 畑の作業を手伝って頂き収穫したりしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りは畑・花壇・垣根にはツル性の花を植え、野菜を収穫し利用者様が楽しんでいる ベランダを利用し椅子を並べて利用者様がゆっくりくつろいだりお茶を飲まれたりしている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

基本的取り組み事項として

1. 職員全員による介護計画書の作成と、そのための定期的カンファレンスの開催
2. 組織による介護支援継続のための情報共有の工夫
3. 情報共有の工夫として、家族会の開催を定期的の実施している
4. 運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの主任ケアマネが参加し、地域社会の協力を得る様努力している